



ハッカソンを中心とした人材発掘とアイデア創出

特定非営利活動法人HMCN

広島県のIT業界は、従事者約9,000人と規模は小さくないもののIT者間の取引比率が高く、東京など大都市からのいわゆる下請業務に従事しているケースが多いのが実情である。下請業務では、新技術に主体的に取り組む機会が少なく、新たな価値を創造するためのモチベーションも低下しやすい。また、優秀な学生も、この状況を嫌って、東京などに就職してしまうケースが多い。

NPO法人HMCNではこの課題を解消するために2015年の発足以来新技術を活用するためのオープンワークショップや、ハッカソンの開催を通して、新技

術を普及・発展させる場づくりを行ってきた。

特に、今年度4回目の開催となるレッドハッカソンは、国内最大規模の技術コンテストであるMashupAwardsや、広島県と連携する形で、毎年新しいアイデアを創出してきた。一方で、ハッカソンのアイデアは一部を除いて継続的な発展につなげることができなかったという反省がある。

今年度、IT融合フォーラムの研究テーマとして活動することで、それぞれのアイデアをより継続的に発展させていきたいと考え、当研究会を発足した。

研究会の目的

ハッカソンを中心としてIT技術者が会社等の垣根なく連携することで、新技術の利用促進、技術力の底上げ、新しい技術活用のアイデア創出を可能とする。また、ハッカソン開催に先立って新技術をテーマとしたオープンなワークショップを開催することでハッカソンでのアイデアの底上げに取り組む。

ワークショップ、ハッカソンにおいては、スタートアップ企業の技術者や、大学研究者を招聘することで新技術を広く活用するための活動・研究を行う。さらに、ハッカソン終了後においても、継続的にアイデアの試作開発、検証、実証を続けることで来年度以降につなげることができるテーマの発掘を行っていく。

今年度の成果

平成30年9月29日、30日に開催したレッドハッカソンは、昨年と比べて大学生を中心とする若手人材を参加者として取り込むことに成功した。また、東京で開催されたMashupAwardsに優勝チームの大学生2名を派遣した。

その後も、10月、2月と継続的にイベントを開催する事でアイデア創出につながる活動ができたと考えている。一方で、検証、実証フェーズについては当初想定した通りの成果につなげる事が出来ず、次年度以降の改善ポイントの検討を行った。平成31年度以後も、継続して研究会を開催する計画をしている。

研究会の方法

研究会のメンバーは、レッドハッカソンを運営してきたNPO法人HMCNが中心となり構成する。その他、広島工業大学をはじめとした大学と連携することで、将来のIT人材を新技術に触れさせることを目的とする。

研究会は月1回程度開催し、継続的に運営していくとともに、関連して新技術に関するワークショップを2回開催する計画であった。ワークショップは、会員以外にも広く募集を募り、オープンなアイデア創出に繋げる。同様に9月に開催するハッカソンでも、スタートアップ企業などから専門家を招聘し、学生や企業から広く参加者を募ることで、より魅力のあるアイデア創出を図

研究会の今後

ハッカソンで創出されるアイデアは、技術視点のものであるため、単純に事業化という目的を繋げてしまうとプロダクトアウトの発想になってしまいがちである。この点について検討会では具体的な結論を得る事ができなかった。ハッカソンやイベントの講師は技術提供企業の広告費で参加してもらえる事が多いため、場づくりのための費用や事業化支援の専門家招聘に予算をかける計画として、今年度深掘りができなかったアイデアについて、継続してフォローしていく予定である。

以上